

検査ニュース

No.123

ご挨拶

平素より、佐賀県医師会成人病予防センター業務には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
今回は、「新規検査項目」と「検査内容の変更」についてご案内申し上げます。

佐賀県医師会成人病予防センター
担当理事 志田 正典

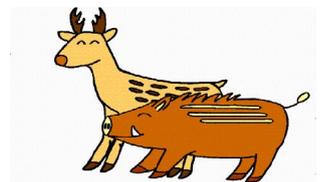
● IgA-HEV 抗体（定性） （平成 23 年 10 月 1 日 から実施料新設）

E型肝炎ウイルス(HEV)は、従前、熱帯から亜熱帯の衛生環境が整っていない地域に常在するウイルスで輸入感染症として認識されてきました。近年、流行国への渡航歴のない国内感染例と、ブタ、イノシシ、シカ等の動物からは、共通の国内土着のHEVが検出され、現在では動物を介した人獣共通感染症としてとらえられています。日本では、感染症法による届出が義務付けられている四類感染症に指定されています。

本検査は、日本土着株と想定されるHEV 遺伝子の3型と4型に対応しており、E型肝炎の感染初期から産生されるIgA-HEV抗体を検出することにより、成因不明の急性肝炎の診断に有用と考えられます。E型肝炎の早期診断により、劇症化を防ぐ慎重な対応や潜在的な感染者への対応が可能になると期待されます。

検査項目	検体量	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位
IgA-HEV 抗体（定性）	血清 0.3mL	2～8	210 ※5	EIA	陰性

※5：免疫学的検査判断料



● 尿中総ヨウ素 （平成 23 年 12 月 1 日 から実施料新設）

甲状腺中毒症は、血中甲状腺ホルモンが高値になることにより、甲状腺ホルモンの作用が過剰に発現した状態をいいます。甲状腺中毒症となる病態には大きく分けて、①甲状腺の機能亢進、②甲状腺の破壊、③外部からの甲状腺ホルモンの過剰摂取、④他臓器での甲状腺ホルモン産生によるものがあります。甲状腺中毒症の原因疾患のなかで、甲状腺ホルモン産生が亢進するバセドウ病と、甲状腺濾胞からの甲状腺ホルモンの逸脱による無痛性甲状腺炎は、どちらも甲状腺機能亢進の症状を示すことがあり、両者の鑑別が重要となります。

本検査は、甲状腺中毒症の疾患のなかで、特にバセドウ病と無痛性甲状腺炎の鑑別診断の補助として有用となります。

検査項目	検体量	所要日数	実施料 判断料	検査方法	備考
尿中総ヨウ素	尿 2mL	3～9	200 ※1	比色法	食事摂取量、ヨウ素含有治療薬、消毒薬、造影剤等により検査結果に影響を及ぼす場合があります。

※1：尿糞便等検査判断料

● ヘリコバクター・ピロリ IgG 抗体

本検査におきまして、試薬変更に伴い、報告範囲を変更いたしました。報告範囲変更による基準値の変更はございません。(10U/mL未満：陰性)

案内書 掲載頁	項目コード No.	検査項目	変更箇所	新	旧
54	1540	ヘリコバクター・ピロリIgG抗体	報告範囲	3～100U/mL	3～300U/mL